NIE実践報告

1．タイトル：**自ら情報を収集し活用する生徒の育成を目指して**

2．学校名

愛媛県立今治南高等学校

3．実践者名（代表者名）

村上文子　吉村尚子　本田めぐみ

4．学年

第１学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間・「語彙・読解力検定」　19**人**

6．単元（本時の学習課題）名

「新聞を読み比べよう」

7．目標（狙い）

語彙・読解力検定合格を目指して、新聞語彙を学び、情報モラル教育の視点から新聞社による情報の違いに気付かせる。

8．評価の視点

新聞記事に興味を持ち、意欲的に内容読解ができたか。様々な情報の中から、必要な情報を取捨選択し自分の考えを構築することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「語彙読解力検定に向けて」（教材：『語彙・読解力検定公式テキスト　合格力養成BOOK**』朝日新聞×**Benesse)[**総合的な学習の時間：**10**時間]**

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１　愛媛新聞と朝日新聞を２人組に一紙ずつ渡し、同一日に掲載されている同一内容の記　事をスクラップする。（１時間）

２　同一内容でも表現の違いがあることに留意し、二社　の違いをまとめ、感想を新聞に投稿する。（１時間）

３　同一内容の記事を１枚選び、解　説文を読解する。（４時間）（留意点）・教員が主観的な意見を述べないように注意する。　違いが顕著な記事を特に選ぶ。文字に対する抵抗を少なくするため、新聞をめくる機会を増やす。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

受け取る情報によって、自分の意見が大きく変わるということを実感し、情報活用能力の必要性について発表する生徒がいた。また、同一内容でも新聞社によって表現方法が違うことを、今回改めて知った生徒が多く、新聞に対する興味関心が深まったようである。

12．成果と課題

時事問題に対する興味関心が深まると同時に読解力も高まったようである。ただし、一朝一夕では力が付かず、具体的にどのような力が身に付いたのか生徒には伝わりにくいようだ。評価の可視化に課題が残る。